

年度:令和7年度
 学校名:茅ヶ崎市立小和田小学校

■今年度のグリーンカーテン実施状況
 (朝顔、ゴーヤ、へちまなど)
実施した ■実施していない

取組テーマ	取組目標	具体的な活動内容		担当者	活動主体	取り組んだこと、その実績	1年を振り返って
生物・自然	生物の飼育・栽培や観察を通して、自然を大切にすることを育てます。	1	野菜、花の栽培(アサガオ、チューリップ、サツマイモ)	1年各担任	1年生	○野菜畑や雑草の生える空き地が同じエリアにあることや、実のなる木が周囲に複数植えられていることから、児童は理科・生活科等の授業時間や休み時間などに、頻繁に庭を訪れていた。児童は、季節の移り変わりにともなう動植物の変化を体感し、栽培や観察等を通して動植物を深く知るとともに、自然とのつきあい方や大切さに気づいていた。	【取組の評価】 <input type="checkbox"/> 達成できた ■ほぼ達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった 【理由】 児童が動植物にふれる機会を定期的につくることができたため。 【今後の課題】 校舎南側の庭には、一昨年度つくったビオトープがあるのだが、発展させることがなかったので、どのように活用するのか考えていく必要がある。 【次年度への引継ぎ事項】 校舎南側の庭のビオトープをどのように活用していくか、児童の学習活動に活かすことができるよう、検討していきたい。
		2	野菜の栽培と観察(ミニトマト)	2年各担任	2年生		
		3	野菜や花の栽培と観察(オクラ、ヒマワリ、ホウセンカ、大豆) カイコ、モンシロチョウの飼育と観察	3年各担任	3年生		
		4	ツルレイシ(ゴーヤ)の栽培活動	4年各担任	4年生		
		5	野菜や花の栽培と観察(ダイズ、アサガオ)、メダカの飼育と観察	5年各担任	5年生		
		6	ジャガイモやホウセンカの栽培と実験、水や空気や食物を通した自然の循環の学習	6年各担任	6年生		
資源・4R・廃棄物削減の取組	ごみの分別、リサイクル活動等を推進し、ごみの量を減らします。	1	古紙、プラスチックごみ、燃やせるごみに分別する。	全学年	全校児童	○環境事業センターへの見学やSDGsに関する調べ学習を通し、環境を守ることへの意識をもち、そのために行うべきことを考えることができた。 ○環境委員会が中心となって呼びかけを行い、全学年全クラスでごみの分別を日常的に意識した。	【取組の評価】 <input type="checkbox"/> 達成できた ■ほぼ達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった 【理由】 校外学習など、体験的な学習が増えたため。また、学習を通して環境への意識が高まったため。 【今後の課題】 身近な問題と地球規模の問題、環境保護と経済、建前と本音など、環境問題について多面的・多角的に考えることをさらに意識させていく必要がある。 【次年度への引継ぎ事項】 発達段階に応じた教材やデータの提示の工夫
		2	使用済みの紙や段ボール、シュレッダーごみの回収と資源化	教頭	職員		
		3	プラスチックゴミの回収	環境委員会担当	環境委員会		
		4	ペットボトルキャップの回収	環境委員会担当	環境委員会		
省エネルギー・省資源の推進	日常の学校生活の中で省エネルギー・省資源活動を実践します。	1	ポスターや校内放送を利用し、節電、節水、資源循環等の呼びかけを行う。	環境委員会担当	環境委員会	○環境委員会が中心となって、省エネルギーや省資源を呼びかけるポスターを作成した。 ○会議資料等の電子化について、校内NASドライブやGoogleドライブを活用し、できる限りデジタルデータを共有するよう心がけ、紙の使用が減った。	【取組の評価】 <input type="checkbox"/> 達成できた ■ほぼ達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった 【理由】 児童が、内容や表現のしかたを自ら工夫した、ポスターを作成することができた。 【今後の課題】 市役所など外部とやりとりする文書は、依然として紙媒体が多い。 【次年度への引継ぎ事項】 今後も、省エネルギーに向けて、できる活動をさらに模索していく。
		2	節電を促すシールを作成し、各クラスの電気スイッチに貼る。	環境委員会担当	環境委員会		
		3	会議資料等の電子化	教頭	職員		

(様式1) 学校エコ活動シート

●写真等の記録:活動や発表の風景等取組の記録を、必要に応じて添付してください。写真等の下に、キャプションをご記入ください。個人情報の取り扱いにご注意ください。

●学校長(推進責任者)によるコメント

【学校長名】

高澤 誠

【今後の方向性について】

児童が学校生活と学習を関連付け、小和田小学校の実態に合ったエコアクションについて、今後も児童とともに考えていきたい。例えば、エアコンの使用頻度や給食の残食量等、児童自らが現状に対して疑問をもち、自ら課題を発見し、自分事としてよりよい状況を目指していこうとする態度を育てたい。また、そのためにどのような行動が必要なのかを考えることができるよう、体験的な活動を取り入れたり、活動への動機づけを意識したりするなど、教材や題材の提示を工夫したい。さらに、児童が行った取り組みの周知を図り、「自分たちでもできる」という達成感や自己有用感を高めさせたい。